

地域と関わった商品開発の取り組み

【キーワード】 デザイン表現・空間演出・ブランド開発・地域活性化・造形ワークショップ

■概要 デザイン教育の実践として実社会と関わりながら進めて来た活動である。地域の活性化を視野にいれ、デザインワークの他に芸術表現要素を加えた商品展示空間の演出や、地域住民を集め実体験できる造形ワークショップを絡めながら商品ブランドの構築に携わった研究である。

■詳細 2007-2015: 『UCHINO Sake Project』 (新潟市西区 塩川酒造)

新潟市西区内野町の酒造会社と連携したプロジェクト。新商品のラベルデザインや、酒蔵をお借りした空間演出。訪れた販賣者や地域の方を対象にした造形ワークショップで構成している。背景には、2001年から動き出した新潟大学教育学部芸術環境講座が主体となった地域連携によるアートプロジェクト「うちのDEアート」の存在がある。連携母体は、新潟市西区・内野町であり、「芸術表現の新たな展開」、「産学官での新たな研究」、「地域コミュニティの再生」を目的としている。
『UCHINO Sake Project』は、地域連携アートプロジェクトとしての企画の一つであり、橋本研究室で取り組んできたデザインプロジェクトである。以下の写真は、プロジェクトの中で商品化されたお酒である。



■2015-2016: 米倉集落でのブランド開発 (新発田市米倉集落)

デザインを踏す行為では、生産者や作り手、地域と関わる行為から始まると考えられる。本事業は、新潟県の助成事業「大学生の力を活かした集落活性化プロジェクト」を採択し、ゼミ学生のデザイン教育の実践という形で新発田市米倉集落と関わり活動した地域ブランド開発である。アウトプットした項目は、1) 地域生産物に用いる共通マークのデザイン、2) ライスセンター壁面サイン計画、3) 集落で用いる緑故米の米袋のデザインである。交流会を通して地域に触れながら進めていった。



DESIGN

地域とのコミュニケーションを積み重ねて行っていく
事業を目指した。

○総合研究に対する優位性として
近隣の内野町で開催して来た地域連携によるアートプロジェクト「うちのDEアート」での15年の活動実績が有り、そこで培った造形表現力・企画運用方法を活かし、複合的なデザインプロジェクトとして、実社会にアウトプットする展開が可能である。

○想定される実施例、応用例
デザイン表現は、幅広いジャンルにも対応することが出来ます。実践例では「農産物」「酒」と関わった地域ブランド開発のプロジェクトであるが、新たな地域や企業との関わりから新たな業種との連携も可能である。現在、その他の活動では、工学領域と連携し、3DCADを用いた産業機械の色彩計画を中心としたデザインワークを産学連携による研究として進行中である。

○今後の課題、展望
基礎研究と違い、市場に向けての着地点が決まった段階でデザインの必要性を求められる事例が多いが、デザインを表面の表現と位置するので無く、商品企画コンセプトに関わりながら進めていくことが望ましい。



集落農産物に用いる共通シンボルマーク



大学研究室



3DCADによるシュミレーション



完成した壁面サイン



決定した「緑故米で用いる米袋のデザイン」

■応用を期待する分野

新潟大学の総合大学としての利点を活かし、農学分野での商品開発や、工学分野と連携した意匠設計の研究活動を行ってきた。実社会で展開するデザインのアウトプットを計画している共同研究との出会いを求めます。